

# 2006年 ペんぎん村 活動報告

ぺんぎん村は 今年も 昨年に続いて ボランティアさんたちの力によって 支えられた一年でした。

昨年の報告にあったように目標とした「遊ぶ」ことを中心にした福祉農園での活動も今年はジャガイモ掘りしかできませんでした。

ボランティアさんが作る作物と「農園で出会う」ことがほとんどできなかったことを反省しつつ、来年度の活動を考えたいと思います。



## ボランティアさんから

平成十八年 ペんぎん村農園の一年

藤枝 孝三

### 1月

今年の一月は非常に寒く、野菜は困っています。それでも物に成りそうです。春取キャベツ、葉物野菜はビニールトンネルにしてあるので良かったです。一月に取れる野菜は、小松菜、ホウレンソウ、ターサイ、サニーレタス、そのくらいです。野菜作りは難しいですネ。寒い日は、ボカシ肥作りと苗土作りを良太君達とハウスの中で作ります。畑の方は霜が降るので、午前中は入れないので午後にする程度です。葉物野菜の手入れなどしています。草は生えないので助かります。

### 2月

2月になって益々寒くなりました。寒い日はハウスの中でボカシ肥と苗土を作っています。ボカシ肥は二月で終わりです。一年分を作ります。良太君達も寒いので動かないですが、二月の末には果実野菜の種子蒔きに入ります。それと、ジャガイモの種子の植付の畑作りに入ります。二月十日より、東京家政大学の方 川崎さんと関根さんが来て下さいました。ネギの種付けはまだ早いのですが、ジャガイモの植え付けもやって下さいました。良く働きます。夏休みになったら、遊びに来て下さいと言ってあります。今が一番寒い時期ですが、もう少しです。皆で頑張っています。

### 3月

だいぶ暖かくなってきました。そろそろ農園の方も忙しくなります。葉物野菜の種子蒔き、果実野菜の床作り・種子蒔き、そろそろ草も生えてきます。大変ですが、楽しみも沢山あります。

三月は良太君の作業が多あります。種子蒔きをやります。良太君は丁寧に蒔くので後が助かります。三月は里芋、八つ頭の植付けもやりました。これからは畑作り・種子蒔きと忙しいですが、楽しみも沢山あるので、皆さん元気で働いています。

## 4月

暖かくなりました。雑草も生えるようになり、これから草取りも大変です。それでも野菜も成長していきます。苗の方も大きくなってきました。夏野菜の苗も大きくなってきました。4月の末から5月の始めに植付けの予定です。葉物野菜も沢山蒔きました。楽しみです。良太君の種子蒔きも進みました。これからは草取りです。

東京家政大の川崎さんと関根さんが来てくれました。里芋の種子取り用の植付けをやってもらう。これで里芋の植付けも終わりです。もうすぐ五月になります。みんな 元気で働いています。

## 5月

夏野菜の苗の植付けが始まりました。まずはきゅうり・ナス・トマト・ピーマン・シシトウ・甘トウなどを植付けしました。4月に植えつけた里芋も芽が出てきました。ジャガイモの芽も出てきました。今、オクラや枝豆の苗も大きくなってきたので、そろそろ植付する予定です。

良太君の種子蒔きは、インゲン・シソなど色々と蒔きました。今が一番楽しい季節ですが、毎日草取りをやっていきます。

## 6月

そろそろ夏野菜の収穫が始まります。今年の作柄は良く出来たと思います。六月で梅雨に入り、毎日曇り空や雨で天気の良い日はあまりありません。そのため草は生えます。毎日草取りと野菜の手入れです。六月はタマネギ・ジャガイモの収穫です。良く出来たと思います。また、キュウリも収穫に入りました。これから暑くなってきます。皆で体に気を付けて働きます。

## 7月

7月になり暑くなりました。ジャガイモの収穫も終わり、夏野菜のキュウリ・ナス・トウガラシなどの収穫も最盛期です。今年も良く出来ました。またインゲン・オクラなども、そろそろ最盛期に入ります。今年にはネギを九条ネギ・一本ネギと沢山作りました。九条ネギはもうそろそろ収穫に入ります。

七月末には、秋取りキャベツとブロッコリーの苗作りをしました。毎日暑い日が続きますので、皆さんと体に気を付けて働いています。

そろそろ 八月です。一番暑い月になります。農園の方も頑張ります。皆様も頑張ってください。

今年には梅雨が長かったので、野菜の方も良く出来ませんでした。キュウリ・ナスはまあまあでしたが、葉野菜はクセが入り余り良く出来ませんでした。トウガラシは良く出来ました。

## 8月

8月になり梅雨も明け暑くなりました。毎日、35度ぐらいの日が続きました。キュウリなど枯れてしまいました。草取りも一段落しました。今月初めに種子を蒔きました。今月末には植付をする予定です。また、末には白菜の苗作りをします。もう秋野菜の段取りに入ります。

今年の里芋は良く出来ています。雨が多かったのがよかったみたいです。毎日暑い日が続いているので、体に気を付けて働きます。

また8月7日より風の学校のキャンプが始まりました。今年も学生さんが手伝いをして下

さいました。暑いので休み休み作業をして頂きました。それと、洗い場の小屋作りもやりました。洗い場の小屋作りは 学生さん達と一緒に暑い中 二日間で作りました。良く出来たと思います。

暑いので、毎日来ている良太君と斎藤君は木陰で休み休み作業をやってもらっています。野菜の販売もまあまあです。

## 9月

9月になり幾分涼しくなりましたが、まだ残暑が厳しく大変です。農園は秋野菜の種子蒔き・植付に入りました。白菜の苗は8月末に種子を蒔き、9月11日に植付をしました。大根は9月5日に種子蒔き、またニンニクも9月7日に植付をしました。それから葉物野菜も、次々といろいろの種類の種子を蒔いています。半ばにはタマネギの種子蒔きもします。それから春取キャベツの種子蒔きを行い、苗を作ります。

野菜作りは春と秋が一番楽しいですね。彼岸も過ぎると、一日一日涼しくなります。私達も大分体が楽になります。今が一番忙しい時かも、体を労わり頑張ります。ボランティアの鈴木さんも、良太君や斎藤君も頑張っています。福祉農園は、皆さんで仲良く楽しく頑張らないとできないと思います。

## 10月

10月になりました。野菜作りには、10月は大変に忙しい季節です。殆どの葉物野菜が作れますので、いろいろな種類の種子蒔きや苗作りをやっていきます。苗の方は、春取キャベツ、ブロッコリーなど 11月に植付予定です。レタスは既に植付けました。9月に植付けた白菜、種子をまいた大根も大きくなりました。

夏野菜のオクラ・ナス・モロヘイア・ピーマンなどの片付けも行なっています。今年は9月・10月と雨が多いので、畑作業は大変でした。天気の日には畑の耕運をやっていきます。秋は種子蒔き時なので、良太君の仕事が多くなりました。夜は肌寒くなり、風邪をひかぬように体に気を付けて皆頑張っています。

## 11月

11月になりました。今年は暖冬で青虫やアブラ虫がいて困っています。白菜、大根、ブロッコリーなど 害虫にやられ困っています。早蒔き葉もの野菜も害虫にやられ困りました。早く寒くならないと困ります。

11月の収穫は 里いもと八頭、大根、白菜、三東菜、ブロッコリー、葉もの野菜といろいろあります。里芋、八頭の収穫も終わりました。ズイキも皮をむき干しました。来年春取りキャベツ、たまねぎ、イチゴの植え付けも終わりました。今は次々と 葉もの野菜の種子蒔きもやっています。

毎日良太君 斎藤君もがんばっています。良太君の仕事も種まき、畑の耕運と忙しいです。毎日楽しくやっています。これから寒くなりますので、体に気を付けて働いています。



## 12月

12月になり まだ暖かい日が多いです。種まきもそろそろ終わりになります。あとは20日ころビニールトンネルを作り、種まきする予定です。今は葉もの野菜のおいしいときです。皆さん沢山食べてください。良太君にだいぶ種まきをやってもらった。今蒔いたところは全部 寒冷紗をかけてあります。草取りの方も あまり伸びないので助かります。朝夕は寒いですが日中は暖かい日が多いです。毎日みんなでがんばっています。

それでは みなさんよいお年を

(2006, 12月)

## 農園の手伝いをして

鈴木 聖二

未だ半年もたっていない時点での感想です。

見沼田んぼ福祉農園で「ぺんぎん村」の畑の手伝いを6月下旬頃から、水曜全日、木・金曜は午前中やっています。農作業の体験は10回程度、埼玉県小川町の金子美登さんの霜里農場であります。農作業の知恵はほとんどありません。



まず、農作業を通じて感じたこと。

週3回程度ですが、はじめの頃は、身体を動かすことだけでも楽しいものでした。真夏の午前のきつい作業を終え、車で帰宅し、風呂場でシャワーと洗濯をして、昼飯とビールをとって、そのままガーと昼寝。それはそれは、気持ちの良いものでした。

ぺんぎん村の畑の作付けをやっている藤枝さんの指示に従って作業をしていると、「有機農業をやることは生き方そのものだ」ということが何となく分かってきます。

健康な生命や生活を維持するために食糧を増産するはずなのに、近代の農業は過程が目的に置き換えられます。農業の目的は、食糧増産にすり替わり、化学肥料や農薬を大量に使い、結果として自然や人間の環境を破壊しています。

実は学校教育も近代の制度は同じことをしています。大人として生活しうる知恵・知識を獲得するために教育はあるはずなのに、近代の教育は、「良い学校」「良い大学に」入ることが目的に置き換えられます。学校で得られた知識量の多寡で人は社会的地位を割り振られ、人は与えられた地位を失わないように、他人や社会のことは考えないように振る舞える習性（これは、学校教育で潜在的につくられます）を手に、与えられた仕事をがむしゃらに働く。考えず、考えず。その結果、自分の生活と社会を壊し、腐らせてしまっています。

ここの畑では、雑草が生えたり、虫が付いたり目の前のことを、除草剤や農薬など後先を考えず処理してしまうという、いかにも能動的で、すごい解決力をみせる近代農法をしないで、有機農業でやっています。草取りやら虫取り、土作り、多品種の作付けの工夫など多様な方法、対処は、受動的で頼りなさそうだけど、良い悪いの許容が広いようで、私には好ましく感じられます。

それに藤枝さんの次に何を作付けするのか、今日は成長してきた野菜の何が採れるのかの実際の畑の日々は興味津々のことが多々あって、それが面白く、農業の知恵がつくようで楽しい。消費者と提携している専業の有機農業家にとっても多品種の作物の年間を通しての作

付け計画は容易でないもの。それを見沼たんぼという土地の良くない土壌条件の下で取り組んでいるのはすごいと感じています。

もう一つ感じていること。この畑の場が、「障害のある人もない人も、子供も大人も、『誰もが共に』自然とふれあい、農を楽しみ、人と出会い、関係を広げていける場にしよう」と位置づけられて取り組まれていること。良太君や晴彦君と一緒にやっていると、ピースフルな晴彦君の一面が見えたり、良太君と「タラリラ、～ ～」と歌って作業をやったりする自分を楽しんでいます。

そして、「私たちは自分の給料を自分たちで稼ぎながら、同時に見沼の環境を（畑を畑として維持させることで）守っていることに誇りを持ってやっています」という わくわくの活動に、私の持つ「希望」のイメージが重なっています。

「希望」を試みると自分で宣言した方向の「試み」の仕事をもっと力を入れてやらなければいけないと、自分の無能力を叱咤しています。 ( 2006.12. 13. )

## 休日の活動

昨年の目標とした「遊ぶ」ことを中心とした福祉農園での活動は 今年も7月のじゃがいも掘しかできませんでした。

当日は 風の学校のメンバーの1人が 自分たちの活動から抜けて、手伝いに入ってくれました。今年のジャガイモは3種類作ったのですが、雨が続いたからか、「土に戻っていた」種類もありました。

家族対象に「農園活動」を行うのは、目的を再確認しないといけない時期だと思います。土にふれる、自然に親しむ、という目的の「農」に関するイベントはさまざまな団体が行っています。それと同じなのか、違うのか、また、そもそもぺんぎん村の村民対象だったはずが参加が決まった顔ぶれしかないのはなぜか、ぺんぎん村として、「農園」をどう位置づけていくのかということではないでしょうか。

ボランティアさんが作る作物と 「農園で出会う」ことがほとんどできなかったことを反省しつつ、来年度の活動を考えたいとおもいます。



## 共同事業

### <1>県庁内ショップ「かつぼ」での販売

昨年の里芋の販売を引き続き今年度も行おうということに手を上げた風の学校とペンギん村で今年も 県庁内での販売を行った。

ペンギん村のかつぼ店番である木曜日の午後販売に農園班が注文書を一緒に配って歩くという形で注文をとった。昨年に比べると注分量は半分近くに減ってしまった。注文書の配布が少なかったのと、回収を確実に行わなかったことも原因のひとつと考えられる。

また、昨年度はペンギん村からかつぼ店番として入っていた担当者が 農園活動にも日常的に参加しており、販売とのかかわりが密だったこともある。



かつぼでの販売

### <2>乾燥ハーブの商品化

昨年度は 風の学校の単独事業としてあったハーブの乾燥を 風の学校の有志が デイケアにボランティアとしてきてくれる形をとって、デイケアメンバーとの共同作業として行った。

最初は、ペンギん広場を乾燥場所として使ったが、ペンギん広場は半地下であるのに付け加えて、人の出入りがあまりないので、締め切っていることが多く、乾燥には適しないことがわかった。それでわくわくの2階に乾燥場所を移動した。わくわくの2階は今までもズイキや切干の乾燥に使用しており、日当たりはよくないが、風通しはよく、ハーブの乾燥にも適していることがわかった。粉碎・袋つめは 風の学校の有志がボランティアとして わくわくのメンバーといっしょに行った。販売は主に 風の学校が行い、残った分に関しては 野菜販売といっしょに引き売りしている。



デイケアでの袋つめ作業

### <3>委託事業

障害のある人といっしょの日常の農園の作業を 昨年はボランティアさんに任せきっていたが、今年度は 風の学校に週3日事業委託という形で、日中活動をおこなった。その他の2日の日中活動は デイケアの職員が主に販売という形で行っている。

いっしょに作業する人が確保できたことは前進であるが、今までの作業のやり方、障害のある人の技術の継続・継承と言う点では、まだまだである。

特に 販売と生産両方を掌握している人の存在が必要であることはいうまでもない。そんな役割を持つ人の確保が最優先課題である。

風の学校とは委託の契約を交わしたが、風の学校全体としてではなく、かかわる人たちだけが 内容を把握していたため、「学生として」の本分がいそがしいときやかかわる人が代わったとき等の連絡の不徹底、そして時間のルーズさはかかわり方と言う点で反省してほしい。

デイケアから農園班という形で参加していたのは3人。週の参加日数も違い、各自の作業へのかかわり方はそれぞれであり、ボランティアさんなくしては、日中の活動が考えられない状況は昨年とあまり変わっていない。

また、農園でのいっしょの作業に純化していたため、「販売」に関してかかわりをもってもらえず、なんのために 野菜を作って売ることの目的が共有化できなかったのではないかと。

今後 デイケア内の活動として農園を位置づけるのか、デイケアと重なりつつも農園活動をもっとメインにデイケアから「はみ出した」活動にしていくかは、デイケア内で 来年度にむけて話し合っていきたいし、農園活動が経済的に成り立つ方向を「のらんど」と言う形で考えねばならない。

風の学校のスタッフとして見沼たんぼ福祉農園で活動するのは五年目でしたが、今年はぺんぎん村の活動を通じて農園に通うことで、新たな農園の魅力に気づいた一年となりました。言わば風の学校中心の週末の顔と、協議会団体中心の平日の顔。その両面を知ることによって、福祉農園の重要性を再認識することとなりました。

私が担当した仕事は、デイケアわくわくのメンバーとともに農作業をすることや、県庁のショップ「かっぼ」での注文書配り、風の学校との共同事業であるハーブの加工などです。週末の農園作業とは時間の流れや作業の手順、仕事の丁寧さなどが違い、農園を職場として関わる方たちの意識の強さを感じました。ボランティアの藤枝さんは知識や経験が豊富で、野菜作りだけでなく作業の段取りを丁寧に教えてくださいました。

わくわくの野菜が立派にできるのは、土や作物に向かう姿勢が真剣であるからだと思います。ぺんぎん村のお手伝いを通じて、働くことの意義を考えさせられる一年でもありました。 矢澤秀範

#### <4>販売（のらんど）

共同事業として やっていくために 風の学校の有志と ペんぎん村の有志での話し合いの場はなんとか設定した。

共同事業の始まりは <1>でも報告したとおり、県庁での里芋販売を行う＝販売をし、「利」を生み出すということを目的にする、ということだった。

ぺんぎん村・わくわく農園部としては、農園担当メンバーの給料とするため、今までも野菜の販売をおこなってきた。昨年は 担当職員がいない状況の中でも、売上げが 100 万を上回ったが、今年は 2 月現在の状況では 100 万をこせないだろう。

その中で 今年度は ズイキの生産量・販売が倍増した。今後も生の野菜として売るだけでなく、保存できる形での販売方法を開拓する必要があるだろう。そのためにも加工場所・貯蔵場所の整備を行わなければならない。

また、今年度は 販売集団として「のらんど」の名前を使おうという話はしたが、中身についての話をつめることはできなかった。今後 のらんどを担う人の確定と 中身についての話を早急に風の学校、ぺんぎん村で 別個にしているのではなく、「のらんど」としてやっていく必要がある。

課題として、

- ① 専従的に毎日かかわれる人の募集
- ② 障害メンバーの給料のためだけでなく、「共に働く」人のためでもある働きかたの模索
- ③ ②を生み出すために何を、だれに、どこで、どれだけ売ればよいのか。
- ④ パッケージ、ラベルなど売り方の工夫
- ⑤ 作付けと加工と販売の連携
- ⑥ 障害メンバーへの支援の共有化

等があげられる。

今年度の残された日々はわずかであるが、来年度にむけて これらのことをやっていきたい。

